

真宗的人格における真宗教義的思考

——在学生への質問紙調査の結果と考察——

長岡 岳 澄

はじめに

本論においては、二〇〇二年六月二十五・二十六日の両日に実施した「宗教及び真宗に対する意識調査」について、その調査を実施するまでの過程、方法、結果、考察を示す。

過 程

真宗は一つの宗教あり、それは宗教的象徴とそれに関する教義とともに、それを受け入れ、拠り所とする人々によって成り立っているものであると捉えられる。真宗学においては、この教義的側面の研究は盛んに行われ、緻密な教義体系が構築されているものの、その一方でそれを受け入れる人々に関する研究は不足しており、また、この研究に対する方法論の構築という面においても多くの課題を抱えているものと考えられる。^①

このような真宗を受け入れた人々に関する研究及びその研究の方法の構築ということを課題として考察を進めており、真宗思想

真宗的人格における真宗教義的思考

と実際の人々がどのように関わっているのか、また、どのように関わっていくべきであるのかということを明確化していきたいと考えている。

このような問題は伝道に関する研究と深く関連するものと考えられる。伝道に関する研究は、現状においては

一 教義的研究。仏教及び真宗の教理及び親鸞の思想等から伝道について考察するものであり、真宗における伝道の原理、根拠、目的等について考察される。

二 歴史的研究。仏教及び真宗の歴史の流れにおいて伝道活動を捉えようとするもの。

三 実践的研究。現代において具体的に取り組まれている伝道活動について考察するもの。

という三つの領域に分類されると考えられる。しかし、これらの研究は従来の宗学研究の延長線上としてなされており、伝道そのものを研究していく上では、より体系化された伝道学の構築が必要であるとも考えられる。この伝道学の構築については今後研究が進めら

れる必要があるものの、それは、伝道の基本的概念として「言語、文書其他の方法を以て、自己の有する宗教的経験若しくは信仰教義を他人に伝達すること、及びそれによりて他人を自己と同一の宗教的経験、信仰に導くこと」^②と示されるように、自己の有する宗教的信仰、他者の宗教的信仰、そして、その間の伝達という三つの視点を含んだものであると考えられる。このような観点から、過去の研究においては真宗の開祖であり、真宗的信仰を體現したと考えられる親鸞についての内面的心理構造を分析したのであるが、それとともに、やはり真宗思想と実際の人間がどのように関わるのか、真宗思想はどのように人々に受け止められているのか、ということをも明らかにしていく必要があることとなった^③。

このような必要性から、実際に真宗思想と人々がどのように関わっているかを調査・研究することになったのであるが、実際に現場を調査・研究するということは、真宗思想と関わりをもつ人々を対象とするということであり、その為にはその人々を対象とした研究方法を用いる必要があるものと考えられる。このような研究方法としては、おおまかに観察によるものと言語を媒介とするものとに大別され、また、言語を媒介とするものとしては面接法、質問紙法、検査法に分類される^④。この方法においても総合的な見地から研究がなされることが望ましいのであるが、実際に真宗的思想がどのように受け止められているかを幅広く捉えることが可能であり、また、比較的多数に短時間で実施でき、かつ比較的安価であるという理

由から、質問紙法を用いて調査することにした^⑤。

以上のような過程を経て、大学院ゼミの龍口量氏、中山尚文氏、森内優子氏、山田浄行氏の協力を得て、質問紙を作成することになった。

方法

本調査の作成形式としては、各自の調査したい宗教的・真宗的思想に関する意識についての質問項目を作成し、そこから内容の妥当性を検討し、抽出したものを質問紙として作成するというかたちをとった。そのような過程を経て作成した質問紙が資料一（論末参照）であり、フェイスシートとして、性別・年齢・所属宗教団体・信仰する宗教・本願寺派との関係を聞き、第一群として、はい・いいの二件法による一般的な宗教に対する意識調査、第二群では、はい・いいの二件法、多肢選択法及び自由記述法によって真宗思想に関する意識、および宗教に関する意識、そして、第三群では僧侶に対する意識調査をはい・いいの二件法によって調査することとした。尚、本調査においては、質問紙法に関して初学であったこと、又、今後の調査継続の為に広い範囲において宗教及び真宗的思想がどのように捉えられているかを調査する必要あったこと等の理由から、心理尺度等などは用いず、意識調査を主として実施することとした。

このようにして作成した質問紙を、龍谷大学浅井成海・大嶋正志

岡先生のご協力をえて、二〇〇二年六月二十五日・二十六日の各講義において実施した。二十五日の調査で一三四部配布し、一一九部回収、二十六日の調査では二九六部配布、二八五部回収し、計四〇四部回収した。そのうち全くの白紙回答一部を除いた計四〇三部の集計をとり、その単純集計を資料一の各項目の後ろの括弧に示した。

仮 定

以上のような調査実施の集計に基づいて考察を進めていくのであるが、本論では、真宗との関わりをもつ人が宗教的・真宗的思想とどのように関っているかを明確にするために、真宗を信仰する人とその他の人との比較を軸として見ていくこととする。

また、その考察に先立って、真宗と関わりをもつ人（便宜上本論では以後「真宗的人格」と呼ぶこととする）^⑥の特性を想定しておく必要があり、その想定の「真宗的人格」について若干触れておくこととする。

まず、前提として真宗が一つの宗教であり、その教義体系・思想体系をもつものである以上、それに関わる人びとに何らかの影響をあたえる、ということが考えられる。この前提自体も調査されるべきであり、むしろ、この真宗が人々に与える影響を明確化していくことが将来的な目標であるのであるが、このことを調査していく為にも、影響があるとしたうえでの想定を立て、それを調査実証していくという過程が必要であると考えられるのである。そして、一つ

一つの想定のは是非を検討して、この真宗が人びとに与える影響というものを明確化していくという作業が成立するものと考えられる。

このような前提に立ちながら、それでは、どのような影響が与えられているのかということを考えるとき、そこには種々の面がみられる。まず、真宗との関わり方に種々の形態があり、肯定的・否定的受け止めということによって、その影響は全く違ったものになると考えられ、また、肯定的に受け止める場合にも、それが教義等を中心とした受け止めか、儀礼等を中心とした受け止めか、という場合ではその影響は違うものとなる可能性もある。そして、そのような、影響を調査する時にも、その行動を調査対象とするか、思考、言語表現を調査対象とするかによって、その結果は異なるものとなり、さらにその下位の分析においても同様のことが考えられる。

これら一つ一つの想定を立てていき、それを調査・実証していくことによってその正否を確認していく必要があり、最終的にはそれらを統合して考察が進められるべきであると考えられるのであるが、本論においては、その教義的側面が思考に与える影響というものについての想定を立てることとする。これは、一つの宗教としての真宗において教義というものが重要な要素であり、共通した教学からは一定の共通した影響が与えられるものと考えられるとともに、質問紙法による初歩的調査に適していると考えられるからである。

ただし、教学的側面に限ってみても、その内容は多岐にわたり、その影響も種々のものが考えられる。そのなかでも、本論において

は真宗教義を代表するものであり、またおおまかに集約している二種深信とそのことに深く関わっていると考えられる来世・浄土観、この世・穢土観というものに注目して考察していくこととする。

二種深信とは善導の『観経疏』『散善義』に

「二者深信」言。「深信」者、即是深信之心也。又有二種。一者決定深信自身現罪惡生死凡夫、曠劫已來、常沒常流轉、無有出離之緣。二者決定深信彼阿彌陀仏四十八願、攝受衆生、無疑無慮、乘彼願力、定得往生^⑧。

と示され、また『往生礼讃』に

二者深信、即是真實信心。信知自身是具足煩惱凡夫、善根薄少流轉三界、不出火宅。今信知彌陀本弘誓願、及称名号下至十声・一声等、定得往生、乃至一念無有疑心、故名深信^⑨。

と示されたものにもとづき、親鸞が『教行信証』『信卷』及び「行卷」に引用しているものであり、また『愚禿鈔』卷下にはこの「散善義」の文を引用した後に

今斯深信者、他力至極之金剛心、一乘無上之真實信海也^⑩

と述べられている。この二種深信についても種々見解の分かれるところではあるのだが、自身は過去からさまよい続けて救われ難い罪惡生死の凡夫であると深信するという機の深信と凡夫が阿彌陀如来の本願のはたらきによって必ず往生させられると深信するという法の深信とによって成り立ち、この二種の深信は一個の信心であり、二種一具であると捉えられている^⑪。そして、これはそのまま真宗に

関わる人々の人間観・自己意識、及び宗教的象徴に関する意識へと影響を与えるものであると考えられるのである。

そして、この二種深信とも深く関わる真宗教義における世界観については、おおまかには彼土と此土、つまり浄土と穢土という二つの面が考えられる。浄土と穢土は真宗教義の根幹に関わるものであり、浄土とは本来諸仏の国土の通称であったが、一般的には浄土とは阿彌陀仏の極樂世界を指すものであると捉えられる。この浄土は、謹按真仏土者、仏者則是不可思議光如来、土者亦是無量光明土也。然則酬報大悲誓願故、曰真報仏土^⑬。

と示されるように、阿彌陀仏の願によって建立されたものであり、この極樂、浄土について親鸞は

「極樂」とまうすはかの安樂浄土なり、よろづのたのしみつねにしてくるしみまじはらざるなり^⑭

というように捉えている。浄土に関する捉え方については客観的実在として捉えるものと、主観的觀念として捉えるものの二つの大きな流れがあるが、いずれにしてもこの浄土を認める姿勢は共通しているものであると考えられ、「真宗的人格」においてもその思考は受け止められ、成立しているものと考えられる。これに対して此土、つまりこの世に対する世界観については、穢土と表現されるように、煩惱から一步もでることのできない世界であるとされ、道綽は『安樂集』において『大集月藏經』を引用し、

我末法時中億億衆生、起行修道未有一人得者。当今末法、現是

五濁惡世、唯有淨土一門可通入路。^⑮

と示し、この世は末法であり濁れた世界であると見ている。親鸞もこれを受けているものと考えられ

爾者、穢惡濁世群生、不知末代旨際、毀僧尼威儀。今時道俗、思量己分。^⑯

というように示し、そして、

捨穢欣淨、迷行惑信、心昏識寡、惡重障多、特仰如来發遣、必歸最勝直道、專奉斯行、唯崇斯信。^⑰

としている。この世、此土に関しては末法であり、穢れたものであると捉えられていると考えられるのである。

このようなことから、「真宗的人格」においては二種深信の影響を受けた思考様式が成立しており、それは自己を罪惡深重の凡夫である考える機の深信の思考と阿弥陀如来によって救われるという法の深信の思考によって構成されていると考えられ、これに関連して、世界観としてはこの世を穢れたもの、苦しいものとして捉え、それに対して淨土という世界観を受け入れていると考えられるのである（このような思考様式を便宜上「真宗教義的思考」と呼ぶことにする）。このことから、「真宗的人格」は「真宗教義的思考」をもっているという想定が導き出されるものと考えられるのであり、本論ではこの想定を軸として調査結果の各項目を見ていきたい。

表－1
フェイスシート
性別

男	女	無記入
233	169	1

所属宗教

浄土真宗本願寺派	その他の真宗	その他の仏教	神道	キリスト教	その他	属していない
138	21	29	2	0	8	202

信仰する宗教

浄土真宗	その他の仏教	神道	キリスト教	その他	信仰していない
149	22	1	0	8	220

寺院との関係

門徒	寺族	衆徒	住職	関係なし
41	84	23	7	239

表－ 2

法の深信思考に関する項目

I-19「仏を信じている」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	110	34	114
その他	169	164	251
計	197	198	395

I-28「仏を信じていない」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	30	115	145
その他	137	113	250
計	167	228	395

II-4-1「阿弥陀仏による救いを信じていますか」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	96	30	126
その他	25	132	157
計	121	162	283

表－ 3

機の深信思考に関する項目

I-13「自分は悪人だ」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	107	39	146
その他	125	125	250
計	232	164	396

I-37「自分は善人だ」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	12	134	146
その他	56	195	251
計	68	329	397

I-33「自分は罪深いものだと思いますか」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	114	32	146
その他	156	96	252
計	270	128	398

表－ 4

浄土に関する項目

I-2「あの世というものはある」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	82	64	146
その他	154	99	253
計	236	163	399

I-22「あの世はない」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	53	92	145
その他	84	169	253
計	137	261	398

II-5-1「浄土というものを信じている」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	107	32	139
その他	57	152	209
計	164	184	348

II-5-2「浄土に生まれたい」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	105	30	135
その他	62	139	201
計	167	169	336

表－ 5

この世に関する項目

I-5「世も末だと思う」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	71	78	149
その他	89	161	250
計	160	239	399

I-32「汚れた世の中だと思う」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	122	27	149
その他	181	70	251
計	303	97	400

I-14「この世は苦しいものだ」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	115	33	148
その他	156	96	252
計	271	129	400

I-20「この世は楽しい」			
	はい	いいえ	計
真宗的人格	105	41	146
その他	196	57	253
計	301	98	399

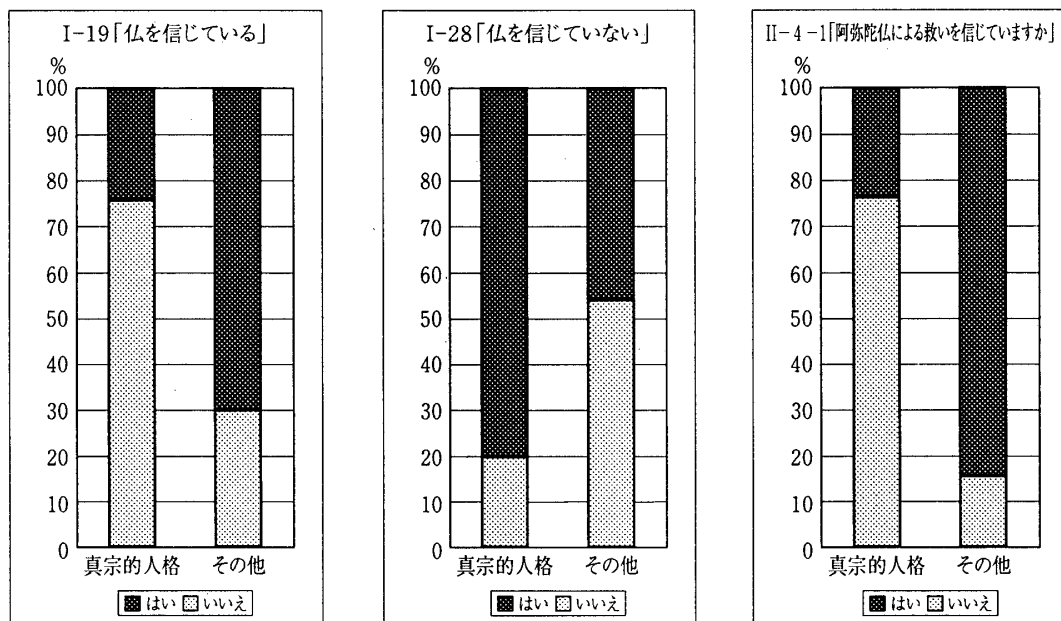


図-1

結果

まず、フェイスシートをもとに本調査における回答者の内訳を示しておく、男性二三三名、女性一六九名、無記入一名の計四〇三名となっており、その年齢は講義での配布・回収であった為、十九〜二十一歳が中心となっている。また、所属宗教団体、信仰する宗教、本願寺派寺院との関係については表-1のようになっている。

この「信仰する宗教」という項目について、「信仰する」という言葉については、そもそも「信仰」とは何か、といった根源的なことから種々の問題を含んでおり、^⑧今後更なる考察が必要であると考えられるのであるが、本論ではここで、自主的に浄土真宗を信仰していると回答した人々を肯定的に浄土真宗から影響を受けている「真宗的人格」とであると仮定し、これらの人々とその他の人々の回答を比較していくことで、「真宗的人格」が「真宗教義的思考」をもっているという想定を検証していくこととする。

まず、「真宗教義的思考」の中の法の深信的思考に関する項目として、I-19、28、II-4-1をみると、それぞれの回答結果は表-2（法の深信的思考に関する項目）のようになり、それぞれの項目を「真宗的人格」とその他の人々との回答を比較すると図-1のようになった。I-19「仏を信じている」という項目に関しては「真宗的人格」では「はい」が76・4%、「いいえ」が23・6%、その他の人々では「はい」が34・7%、「いいえ」が65・3%となり、この

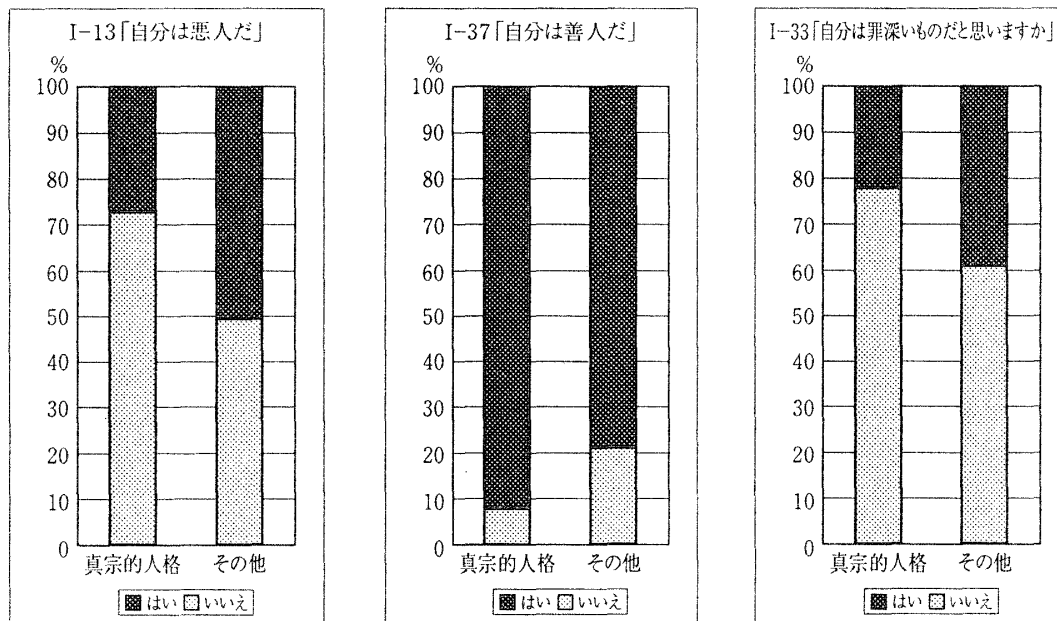


図-2

逆の意であるI-28「仏を信じていない」については「真宗的人格」では「はい」が20・7%、「いいえ」が79・3%、その他の人々では「はい」が54・8%、「いいえ」が45・2%となった。さらに、この二つの項目に関して一貫した回答、つまり、「仏を信じて」おり、かつ「仏を信じていない」ことはない回答の比率をみると、「真宗的人格」では75・0%、その他の人々では33・3%となった。

また、II-4-1「阿弥陀仏による救いを信じていますか」についても、「真宗的人格」では「はい」が75・2%、「いいえ」が23・8%となり、その他の人々では「はい」が15・9%、「いいえ」が84・1%となった。

次に機の深信的思考に関する項目として、質問紙のI-13、33、37をみると、それぞれの回答結果は表-3（機の深信的思考に関する項目）のようになり、それぞれの項目を「真宗的人格」とその他の人々との回答を比較すると図-2のようになった。この結果を見てみると、I-13「自分は悪人だ」という質問に関しては「真宗的人格」では「はい」が73・3%、「いいえ」が26・7%であるのに対し、その他の人々では「はい」が50・0%、「いいえ」が50・0%となり、また、この項目の逆の意であるI-37「自分は善人だ」については「真宗的人格」では「はい」が8・2%、「いいえ」が91・8%、その他の人々では「はい」が22・3%、「いいえ」が77・7%となった。さらに、この二つの項目に関して一貫した回答、つまり、「自分は悪人だ」と思い、且つ「自分は善人だ」と思わない比率を

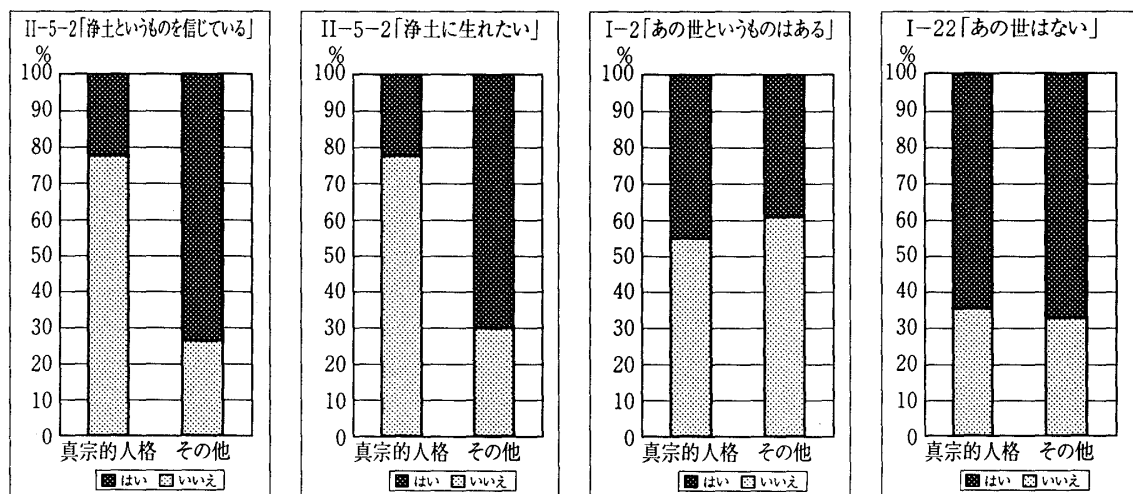


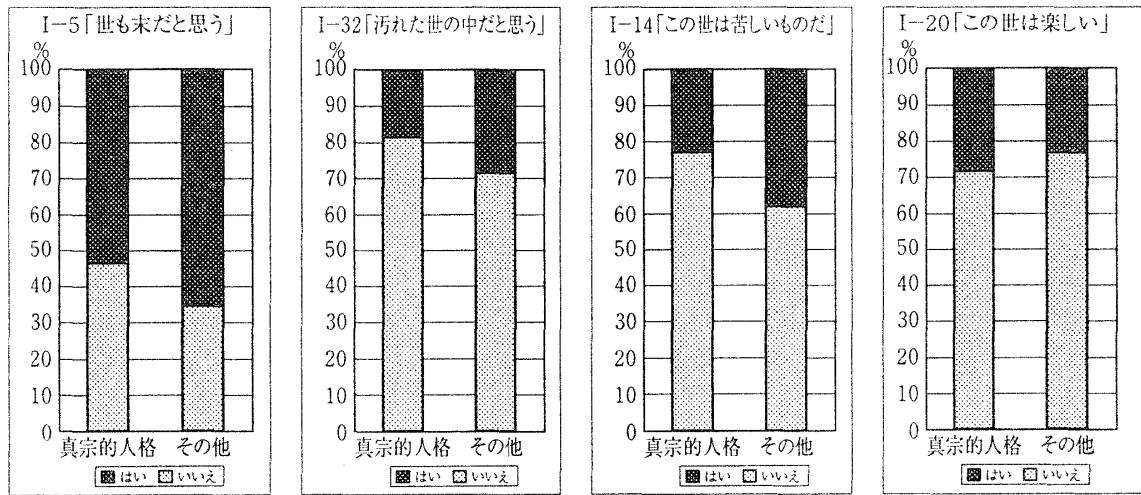
図-3

みると、「真宗的人格」では68・8%、その他の人々では45・2%ともなった。

また、I-33「自分は罪深いものだと思いますか」についても、「真宗的人格」では「はい」が78・1%、「いいえ」が21・9%であるのに対して、その他の人々では「はい」が61・9%、「いいえ」が38・1%となった。

浄土に関する項目としてI-2、22、II-5-1、5-2を見てみると、その回答結果は表-4（浄土に関する項目）のようになり、それぞれの項目を「真宗的人格」とその他の人々と比較すると図-3のようになった。I-2「あの世というものはある」については「真宗的人格」では「はい」が56・9%、「いいえ」が43・8%となり、その他の人々では「はい」が50・9%、「いいえ」が39・1%となった。その逆の意であるI-22「あの世はない」については「真宗的人格」では「はい」が36・6%、「いいえ」が63・4%、その他の人々では「はい」が33・2%、「いいえ」が66・8%となっており、この二つの項目に関して一貫した回答、つまり「あの世というものはある」と思い、「あの世はない」とは思わない比率をみると「真宗的人格」では54・5%、その他の人々では59・8%となった。

また、II-5-1「浄土というものを信じている」に関しては「真宗的人格」では「はい」が77・0%、「いいえ」が23・0%であり、その他の人々では「はい」が27・3%、「いいえ」が72・7%で



図—4

あった。II—5—2「浄土に生れたい」に関しては「真宗的人格」では「はい」が77・8%、「いいえ」が22・2%であり、その他の人々では「はい」が30・8%、「いいえ」が69・2%であった。

そして、この世に関する項目としてI—5、14、20、32を見てみると、その回答結果は表—5（この世に関する項目）のようになり、それぞれの項目を「真宗的人格」とその他の人々とで比較すると図—4のようになった。I—5「世も末だと思う」については「真宗的人格」では「はい」が47・7%、「いいえ」が52・3%、その他の人々では「はい」が35・6%、「いいえ」が64・4%であり、I—32「汚れた世の中だと思う」については「真宗的人格」では「はい」が81・9%、「いいえ」が18・1%、その他の人々では「はい」が72・1%、「いいえ」が27・9%であった。また、I—14「この世は苦しいものだ」については「真宗的人格」では「はい」が77・7%、「いいえ」が22・3%、その他の人々では「はい」が61・9%、「いいえ」が38・1%であり、I—20「この世は楽しい」については「真宗的人格」では「はい」が71・9%、「いいえ」が28・1%、その他の人々では「はい」が77・5%、「いいえ」が22・5%であった。この二つの項目に関して一貫した回答、「この世は苦しいもの」であると思い、且つ「この世は楽しい」とは思わない比率は「真宗的人格」では26・7%、その他の人々では19・1%となった。

考 察

以上、本調査において「真宗教義的思考」に関する項目の回答を「真宗的人格」とその他の人々とに分けて示したのであるが、この結果を受けて、「真宗的人格」は「真宗教義的思考」をもっているという想定の正否を見ていくこととする。

「真宗教義的思考」として、二種深信的思考と浄土・穢土観という四つの側面に注目したのであるが、まず、二種深信的思考の中の法の深信的思考に関しては、「真宗的人格」においては仏を信じ、阿彌陀如来によつて救われることを信じているものと想定されるのであるが、これについてはⅠ-19「仏を信じている」、Ⅰ-28「仏を信じていない」の両項目を通して「真宗的人格」とその他の人々では「真宗的人格」の方が「仏を信じて」おり、「仏を信じていない」ことはない比率が高く全体として「真宗的人格」においては法の深信的思考が持たれている傾向があるとみなしてよいように考えられる。また、Ⅱ-4-1「阿彌陀仏による救いを信じていますか」という項目においては「真宗的人格」とその他の人々との回答の比率に大きな違いがあり、「仏を信じて」おり、且つ「阿彌陀仏による救いを信じてい」と回答した比率は真宗的人格では69・9%、その他の人々では11・3%であることから、「真宗的人格」においては法の深信的思考がもたれていると考えることができる。

しかし、この法の深信的思想は真宗の最も根幹の部分であり、本

論で「真宗的人格」とした浄土真宗を信仰していると回答した人々において、「仏を信じている」ことなく、且つ「阿彌陀仏による救いを信じてい」とない回答した比率が15・4%あるということは、今後考察する余地のある問題であると考えられる。これは真宗を信仰しているとしながら、阿彌陀仏を信じていないのが悪い、というような価値判断の問題ではなく、その現状をいかにとらえることが可能であるのかという現状認識の問題としてである。

次に二種深信的思考の中の機の深信的思考に関しては、「真宗的人格」においては自らを罪惡深重の凡夫であると捉えているものと想定されるのであるが、これについてⅠ-13「自分は悪人」であり、Ⅰ-37「自分は善人」ではないとの回答が「真宗的人格」では68・8%、その他の人々では45・2%であり、これもまた「真宗的人格」においては全体として機の深信的思考が持たれている傾向が強いと捉えることができ、またⅠ-33「自分は罪深いものだと思」うにしても「真宗的人格」の方が比率が高く、このことから「真宗的人格」においては機の深信的思考傾向があると考えられる。ただし、これに関しても法の深信的思考と同様に浄土真宗を信仰すると回答しながらも、「自分を悪人だ」と思わないという回答があることの現状をいかに捉えるか、またその他の人々においても「自分を悪人だ」と思い、「自分は善人だ」と思わない比率が高いこととの差をいかに見ていくかということは今後さらに厳密に考察していく必要があるものと考えられる。

あの世・浄土観に関しては、「真宗的人格」においては基本的にあの世・浄土というものを信じており、そこへの往生を願っているものと想定されるのであるが、まず、「あの世」についての項目Ⅰ―2・22の回答を見ると「真宗的人格」とその他の人々の回答はほぼ同様なもの、若干その他の人々の方が「あの世はある」と思っていることがわかる。それに対してⅡ―5―1「浄土というものを信じている」の回答では「真宗的人格」とその他の人々との間には大きな差があり、「真宗的人格」においては浄土を信じている傾向が強くなっている。同様にⅡ―5―2「浄土に生まれない」についても「真宗的人格」とその他の人々の間には大きな違いが見られる。このことから、「真宗的人格」では浄土を信じており、そこへの往生を願っているという想定は一応認められると考えられるものの、「あの世」というものについては今後の考察が必要であることが分ってくる。つまり、あの世Ⅱ浄土とは捉え難いものの、「真宗的人格」においても過半数があのだと思っており、あの世と浄土の関係がどのように真宗的人格において捉えられているのか、ということをも更に考察していく必要があると考えられるのである。

そして、この世・穢土観に関しては、「真宗的人格」においてはこの世を末法であるとし、苦しいもの穢れたものとして捉えていると仮定されるのであるが、Ⅰ―5「世も末だと思ふ」の回答を見てみると、その他の人々と比べて比率は高いものの、「真宗的人格」の過半数が「世も末だと思ふ」ことはないということは、「真宗的

人格」がこの世を末法であると思えてるとは言い難い現状を示しているものと考えられる。また、Ⅰ―32「汚れた世の中だと思ふ」の回答では「真宗的人格」の方がこれもまた若干比率が高いものの、その他の人々においてもその比率は高く、総じて「汚れた世の中だと思ふ」ていることが分る。このことから、この世が汚れたものであると捉えることは「真宗教義的思考」というよりも、その他の要因があるものと考えられ、その要因と真宗の末法思想の思想との差異は今後考察されるべきであると考えられる。

また、Ⅰ―14「この世は苦しいものだ」とⅠ―20「この世は楽しい」の回答を見ると、「この世は苦しい」と思い、且つ「この世は楽しい」と思うという回答が多く、この結果からも、この世の受け止め方というものには「真宗教義的思考」以外の要因が大きくはたらいっているものと考えられる。

以上、法の深信的思考、機の深信的思考、この世・穢土観、あの世・浄土観という四つの側面に注目して「真宗教義的思考」を見てみたのであるが、「真宗的人格」においては阿弥陀仏を信じ、自身を悪人であるとみなすという二種深信的思考傾向が強く、また浄土というものを受け入れているものの、この世・穢土観においては「真宗的人格」の特有の傾向は見られず、また、あの世というものに関しても特有の傾向は見られないという結果となった。このことから、本論における、「真宗的人格」は阿弥陀如来によって救われ、

自己を罪惡深重の凡夫であると考え、またこの世を汚れたもの、苦しいものとして捉え、浄土を受け入れているという「真宗教義的思考」を持っているであろう、という想定は成り立たないということが示されたことになる。

ただし、二種深信的思考傾向及び浄土観というものは「真宗的人格」特有のものが、これらの傾向に注目して今後「真宗教義的思考」傾向の考察を深めていくことは有意義なものであると考えられ、また、その他の人々との差異が見られなかった、この世・穢土、あの世というものが、真宗的人格とその他の人々における捉え方が同一であるかどうかを検証していく必要があると考えられる。

そして、本論においては真宗を信仰していると回答した人々をひとまとめにして「真宗的人格」と定義したが、この定義に関してもその中にも種々の類型があるものと考えられ、このこと自体にも考察が必要であると考えられる。

本論は、伝道という観点から真宗思想と人間との関りを明らかにしていこうとする基礎的な研究であり、これによって明らかにしたことはごく一部である。本論の中においても、数々の今後の研究課題を提起したが、それらの一つ一つを研究していくことによって、真宗思想と人間との関りが徐々に解明され、また、この延長として真宗思想を人々が受け入れていく過程も明らかにしていくことが可能であると考えられる。

註

① このような問題は「教学と現場の乖離」、「教学なき現場、現場なき教学」というように言い表わされ、また、近年の伝道に関する研究の深まりも関連しているものと考えられる。

② 宇野圓空「伝道の発達及び動機」『六条学報』一四七

③ このような立場からの先行研究としては岡道固「入信の要因」(龍谷大学論集 三五三 八六頁—九五頁)、大村英昭・佐々木正典・金児暁嗣「ポスト・モダンの親鸞」、金児暁嗣「日本人の宗教性オカゲとタタリ」の社会心理学」等が挙げられる。

④ 続有恒・村上英治編『心理学研究法 第九巻 質問紙調査』一頁—二二頁。

⑤ 質問紙法の短所としては個人の内面を深くとらえることがむずかしい、調査対象の防衛がはたらきやすい、適用年齢に制限がある、といった点が挙げられ、これらの短所を補うためには面接法、観察法、検査法などとの併用も考える必要がある。鎌原雅彦他編著『心理学マニュアル 質問紙法』三頁参照。

⑥ 本論では「人格」という用語を便宜上用いるが、この「人格」というものをどのように捉えるか、ということも本来的には大きな問題である。G. W. Allport (1961) は「個人のなかにあつて、その人の特徴的な行動と思考を決定するところの、精神身体的体系の動的組織」(今田恵・入谷敏男訳『人格心理学 上』三四頁)と定義しており、今後の研究において真宗思想と人格との動的関わりについても考察していく必要があるものと考えられる。

⑦ 二種深信については普賢大円氏は「信心は無義為義の心であるが、その他力にまかせる心持ちはどんなものであらうか。それを示すものとして真宗には古今一貫の教へがある。二種深信即ちこれである。(中略)……この二種深信が義なきを義とすといふ信心の信じぶりなのである。」(『真宗概論』一五三頁—一五四頁)であるとし、また岡道固氏は大原氏・大江氏・梅原氏の理解を受けた上で「宗教意識に

は二つの要因がある。一つは信ずるもの、信仰の主体すなわち機であり、他は信ぜられるもの、信仰の対象すなわち法である。浄土門では特に善導の観無量寿経疏に由来する二種深信すなわち機の深心と法の深心とを重視する。…(中略)…この二要因を信仰者の心理過程としてみれば、一つは自己の不完全、罪惡、煩惱の確信 (Conviction) であり、他はその欠陥を充たす法への仰信 (Aspiration) であるといえる。信仰者の意識に、この確信と仰信とが存しないかぎり、信仰は成立しない。」(「真宗信仰の心理学的管見」『大原先生古稀記念 浄土教思想研究』所収八八頁) としている。

⑧ 真聖全一 五三四頁。

⑨ 真聖全一 六四九頁。

⑩ 「信巻」及び「行巻」に引用される『往生礼讃』の文は智昇の『集諸経礼讃儀』から引かれている。

⑪ 真聖全二 四六六頁。

⑫ 二種深信については古来種々の見解が生じており、高木昭良『安心論題解説』によると、その中代表的な異解として一、信機自力の異義、二種深信が機を信じ法を信ずるという以上、そこには二心が並起するわけにはいかないで、はじめの機の深信には自力のはたらきがあると主張するもの、二、信機生因の異義、信機と信法を二つとみなし、その信機のところで往生の因が決定することを主張するもの、三、後続に信機の相はないとする異義、信の一念をうるまでは必墮無間の凡夫という信機の相があるけれども、後続には地獄ゆきという信機の相はあるはずはないと主張するもの、が挙げられている(高木昭良『安心論題解説』六三頁—六五頁参照)。このような二種深信に対する異解を含めた種々の捉え方も、それが実際の人々においてどのように受け止められているか、という観点から考察を深めていくのも今後の課題であると考えられる。

⑬ 真聖全一 一一〇頁。

⑭ 真聖全二 六三〇頁。

⑮ 真聖全一 四一〇頁。

⑯ 真聖全二 一六八頁。

⑰ 真聖全二 一頁。

⑱ 「信仰」という問題は、宗教の根幹に関わる問題であり、宗教学・宗教心理学の分野でも重要な問題として扱われている。「信仰」に関して岸本英夫氏は「信仰は、心の中の、宗教的な『かまえ』である。単に『かまえ』であるのみならず、これは重層的な構造を持っている。同じく宗教的な『かまえ』でも、こころのずっと深いところにあつて、信仰の基礎的な骨組みの役割りをする部分がある。また、比較的に人格構造の表面に近く、個々の、具体的な宗教的行動の、鋳型の役割りをする部分がある。」(岸本英夫『宗教学』二五頁)とし、松本滋氏は「強いて言うなら、信仰とは究極者(あるいは無限者)に対する人間の信頼の態度とも言えよう」(松本滋『宗教心理学』一三三頁)としている。また、このような宗教学的な見地とともに、真宗における「信仰」の捉え方として「他力」という重要な概念がある。これは大原氏によれば「他力の信は、自己の力によつておこす信に非ずして、如来の光明に調熟せられ、開眼せしめられたところに、領受せられる信である。いな信を領受して後開眼せしめられるというのではなしに、開眼せしめられたことが領受したことであり、領受したことが開眼せしめられたことである。」(大原性實『真宗学概論』一六八頁)というように示される。このような他力の信と一般的な信仰との関係性ということも大きな問題であると考えられる。

資料一

宗教及び真宗に対する意識調査

この調査は大学院の研究の一環として宗教及び浄土真宗に対する意識を調べようとするものです。それぞれについて記入上の注意を読んでお答えください。尚、結果は統計的に処理し、個人の回答のみを問題にしたり、公表することはありませんので、ご協力下さいませようお願いします。

※下記の項目に所定の事項をご記入ください

調査日 2002年 ____月 ____日

性別 男(233) 女(169) その他(2)

年齢 ____才

何らかの宗教団体に属しておられますか ○印をつけて下さい

- ・属している— 1、浄土真宗本願寺派(138) 2、その他の真宗(21)
3、その他の仏教(21) 4、神道(2) 5、キリスト教(0) 6、その他(8)

宗教団体名 ()

- ・属していない(202)
未記入(4)

何らかの宗教を信仰していますか ○印をつけて下さい

- ・信仰している— 1、浄土真宗(149) 2、その他の仏教(22) 3、神道(1)
4、キリスト教(0) 5、その他(8)

宗教名 ()

- ・信仰していない(220)
未記入(4)

浄土真宗本願寺派の寺院との関係はどのようなものですか ○印をつけて下さい

- ・関係がある— 1、門徒(41) 2、寺族(84) 3、衆徒(23) 4、住職(7)

- ・関係はない(239)
未記入(10)

不明な点がございましたら下記までご連絡下さい

(調査代表者)

龍谷大学大学院真宗学専攻

長岡 岳澄

真宗的人格における真宗教義的思考

I、以下の質問にお答えください

(1.はい 2.いいえ のどちらかに○を付けてください)

- | | |
|---------------------|--------------------------------|
| (1) 宗教はいらない | 1.はい(56) 2.いいえ(345)
未記入(3) |
| (2) あの世というものはある | 1.はい(236) 2.いいえ(163)
未記入(5) |
| (3) 長生きしたい | 1.はい(260) 2.いいえ(142)
未記入(2) |
| (4) お墓は必要ない | 1.はい(91) 2.いいえ(311)
未記入(2) |
| (5) 世も末だと思う | 1.はい(160) 2.いいえ(239)
未記入(5) |
| (6) 宗教に興味がある | 1.はい(211) 2.いいえ(190)
未記入(3) |
| (7) 宗教は必要だ | 1.はい(302) 2.いいえ(95)
未記入(7) |
| (8) 僧侶の話を聞きたいとは思わない | 1.はい(152) 2.いいえ(248)
未記入(4) |
| (9) 寺院は必要だ | 1.はい(331) 2.いいえ(68)
未記入(5) |
| (10) 長生きはしたくない | 1.はい(101) 2.いいえ(298)
未記入(5) |
| (11) 心の拠り所がある | 1.はい(255) 2.いいえ(143)
未記入(6) |
| (12) 仏壇は必要ではない | 1.はい(87) 2.いいえ(310)
未記入(7) |
| (13) 自分は悪人だ | 1.はい(232) 2.いいえ(164)
未記入(8) |
| (14) この世は苦しいものだ | 1.はい(271) 2.いいえ(129)
未記入(4) |
| (15) 心の拠り所を宗教に求める | 1.はい(74) 2.いいえ(325)
未記入(5) |
| (16) 苦しいことから逃げたいと思う | 1.はい(284) 2.いいえ(116)
未記入(4) |
| (17) 葬式以外にも寺の役割はある | 1.はい(368) 2.いいえ(33)
未記入(3) |
| (18) 死ぬことに不安を感じない | 1.はい(81) 2.いいえ(320)
未記入(3) |

(19) 仏を信じている	1. はい(197) 未記入(9)	2. いいえ(198)
(20) この世は楽しい	1. はい(301) 未記入(5)	2. いいえ(98)
(21) 生きることに不安を感じる	1. はい(264) 未記入(3)	2. いいえ(137)
(22) あの世はない	1. はい(137) 未記入(6)	2. いいえ(261)
(23) お寺は必要でない	1. はい(52) 未記入(4)	2. いいえ(347)
(24) 宗教に興味はない	1. はい(148) 未記入(3)	2. いいえ(252)
(25) 仏壇は必要だ	1. はい(283) 未記入(4)	2. いいえ(116)
(26) 生きることは辛い	1. はい(244) 未記入(5)	2. いいえ(154)
(27) お墓は必要だ	1. はい(287) 未記入(3)	2. いいえ(112)
(28) 仏を信じていない	1. はい(167) 未記入(8)	2. いいえ(228)
(29) お寺は葬式をするところだ	1. はい(102) 未記入(3)	2. いいえ(298)
(30) 死ぬことに不安を感じる	1. はい(292) 未記入(4)	2. いいえ(107)
(31) 僧侶の話を聞きたいと思う	1. はい(210) 未記入(5)	2. いいえ(188)
(32) 汚れた世の中だと思う	1. はい(303) 未記入(3)	2. いいえ(97)
(33) 自分は罪深いものだと思いますか	1. はい(270) 未記入(5)	2. いいえ(128)
(34) 心の拠り所を探している	1. はい(206) 未記入(5)	2. いいえ(192)
(35) お寺は伝道場である	1. はい(221) 未記入(6)	2. いいえ(178)
(36) 死にたいと思うときがある	1. はい(176) 未記入(2)	2. いいえ(225)
(37) 自分は善人だ	1. はい(68) 未記入(6)	2. いいえ(329)

Ⅱ、以下の質問にお答えください。なお選択肢のあるものに関しては複数回答可です。

(1) 浄土真宗というものを知っている
1. はい(314) 2. いいえ(84)
未記入(5)

↓ (はい) と答えた方は次の質問にお答え下さい

① 浄土真宗の教えを信じている
1. はい(138) 2. いいえ(167)

② 浄土真宗以外の教えを信じている
1. はい(38) 2. いいえ(245)

③ 浄土真宗に対してどのようなイメージをもっていますか
思いつくことを書いてください()
1、親鸞(48) 2、他力(15) 3、悪人正機(12) 4、救われる教え(6)
5、念仏(11) 6、大きな仏教教団(10) 7、阿弥陀仏の教え(5)
8、その他のプラスイメージ(29) 9、墮落している(3) 10、俗的(3)
11、その他のマイナスイメージ(22) 12、その他(63) 総数(227)

(2) 浄土真宗の門徒ですか
1. はい(97) 2. いいえ(282)

↓ (はい) と答えた方は次の質問にお答え下さい

① 住職に何を求めますか (複数回答可) 総数(164)
1、地域指導者(23) 2、精神的カウンセラー(45) 3、仏教を教える人(54)
4、一隣人(16) 5、求めない(17) 6、その他(9) ()

(3) 念仏(南無阿弥陀仏)を知っている
1. はい(316) 2. いいえ(77)

↓ (はい) と答えた方は次の質問にお答え下さい

① どういう時に念仏を称えますか (複数回答可) 総数(572)
1、お墓に参った時(168) 2、嬉しい時(25) 3、悲しい時(24)
4、寂しい時(13) 5、苦しい時(36) 6、自分の思い通りにならなかった
時(11) 7、願い事をする時(22) 8、困った時(27) 9、恐い時(31) 10、
称えない(75) 11 その他(70) ()

② 念仏を称えるときどのようなことを思いますか (複数回答可) 総数(405)
1、無心(101) 2、浄土へ生まれたい(17) 3、幸せになりたい(27)
4、仏さまありがとう(67) 5、何も思わない(114) 6、その他(40)
()

③ 念仏の意義はどのようなものだと思いますか (複数回答可) 総数(429)
1、ただの習慣(49) 2、往生の方法(89) 3、感謝(120) 4、お願い(37)
5、考えたこともない(77) 6、その他(28) ()

④念仏のイメージはどのようなものですか

思いつくことを書いてください()

- 1、南無阿弥陀仏(8) 2、落ち着かせる(14) 3、感謝(14)
4、ありがたいもの(5) 5、その他のプラスイメージ(34)
6、形式化されたもの(17) 7、呪文(10) 8、難しい(6)
9、意味がわからない(11) 10、その他のマイナスイメージ(23)
11、その他(57)

総数(199)

(4) 阿弥陀如来というものを知っている 1.はい(290) 2.いいえ(103)

↓ (はい) と答えた方は以下の質問にお答え下さい

①阿弥陀仏による教いを信じていますか 1.はい(121) 2.いいえ(162)

②阿弥陀如来にたいしてどのようなイメージをもっていますか

思いつくことを書いてください()

- 1、光(16) 2、優しさ(19) 3、救済者(12) 4、仏(5)
5、すばらしい(9) 6、その他のプラスイメージ(29)
7、つくられたもの(10) 8、その他のマイナスイメージ(3) 9、その他(56)
10、特になし(22)

総数(181)

(5) 浄土というものを聞いたことがある 1.はい(350) 2.いいえ(42)

↓ (はい) と答えた方は以下の質問にお答え下さい

①浄土というものを信じている 1.はい(164) 2.いいえ(184)

②浄土に生まれたい 1.はい(167) 2.いいえ(169)

③浄土に対してどのようなイメージをもっていますか

思いつくことを書いてください()

- 1、天国(13) 2、楽園(6) 3、幸せなところ(4) 4、清らかなところ(11)
5、苦がないところ(12) 6、極楽(13) 7、さとの世界(4)
8、光の世界(6) 9、その他のプラスイメージ(54) 10、死後の世界(4)
11、想像の世界(12) 12、その他のマイナスイメージ(7) 13、その他(41)
14、特になし(16) 15、わからない(14)

総数(217)

(6) 宗教という言葉にどのようなイメージをもっていますか

思いつくことを書いてください()

- 1、心の拠り所(38) 2、救い(8) 3、信仰(15) 4、思想(9)
5、その他のプラスイメージ(29) 6、良くも悪くもある(22) 7、危険(7)
8、怪しい(17) 9、争い(12) 10、暗い(6) 11、その他のマイナスイメージ(56)
12、その他(72)

総数(291)

(7) 死んだらどうなると思いますか (複数回答可) 総数(508)

- 1、完全なる無(110) 2、真っ白な世界(24) 3、この世に生まれ変わる(82)
4、別の世界に生まれる(48) 5、仏になる(43) 6、わからない(150)
7、その他(26) ()

(8) お寺にはどの程度行きますか

- 1、ほぼ毎日(58) 2、週に一回くらい(11) 3、月に一回くらい(26)
4、一年に数回(134) 5、ほとんど行かない(129) 6、行ったことがない(17)

(9) 相談は誰にのってもらいますか (複数回答可) 総回答(650)

- 1、友人(314) 2、家族(195) 3、上司(8) 4、先生(34)
5、専門家(カウンセラー等)(5) 6、僧侶(7) 7、相談しない(63)
8、その他(24) ()

(10) 仏とはどのようなものだと思いますか (複数回答可) 総回答(469)

- 1、偶像(109) 2、絶対者(21) 3、救い(156) 4、自分の本質(44)
5、優しさの象徴(80) 6、その他(59) ()

(11) 寺院はどのような場所だと思いますか (複数回答可) 総回答(729)

- 1、観光の場所(176) 2、近所の人が集まる場所(79) 3、修行の場所(130)
4、儀礼の場所(166) 5、話を聞く場所(140) 6、その他(38) ()

(12) お寺に対してどのようなイメージをもっていますか

思いつくことを書いてください()

- 1、荘厳で落ち着く場所(74) 2、自分を見つめ直す場所(5)
3、お金をとられる、墮落している所(29)
4、観光したり、聞法したり人が気軽に集まれる場所(28)
5、儀礼をする場所(10) 6、暗くて怖い所(15) 7、伝統、歴史がある場所(33)
8、その他(100)

総数(291)

- (13) 僧侶にどのようなことを望みますか (複数回答可) 総回答(460)
- 1、葬式だけでよい(48) 2、宗教について教えて欲しい(118)
- 3、宗教以外の相談に乗って欲しい(86) 4、地域のリーダーになってほしい(18)
- 5、何も望まない(150) 6、その他(40) ()

- (14) 僧侶に対してどのようなイメージをもっていますか
思いつくことを書いてください()
- 1、人格者(50) 2、ずるい(64) 3、伝道者(12) 4、求道者(14)
- 5、形式的(11) 6、普通の人(10) 7、その他(80) 9、特にない(24)
- 総数(265)

Ⅲ、以下の質問にお答えください

(1.はい 2.いいえ のどちらかに○を付けてください)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| (1) 僧侶は頭を剃っていた方がいい。 | 1.はい(135) 2.いいえ(256) |
| | 未記入(12) |
| (2) 僧侶の受け取るお布施は高額だと思う | 1.はい(254) 2.いいえ(130) |
| | 未記入(19) |
| (3) 僧侶の生活は質素であるべきだと思う | 1.はい(178) 2.いいえ(215) |
| | 未記入(10) |
| (4) 僧侶は社会の役に立っていると思う | 1.はい(231) 2.いいえ(155) |
| | 未記入(14) |
| (5) 僧侶は必要だと思う | 1.はい(322) 2.いいえ(70) |
| | 未記入(11) |
| (6) 僧侶の読むお経はありがたいと思う | 1.はい(179) 2.いいえ(207) |
| | 未記入(16) |

以上で終了です
ご協力ありがとうございました